公益財団法人ひょうごコミュニティ財団

Newsletter

第7号　2023 年12月発行

〒650-0022 神戸市中央区元町通 6-7-9 秋毎ビル３階
TEL:078-380-3400 FAX:078-367-3337
hyogo@communityfund.jp
https://hyogo.communityfund.jp/

《目次》

○巻頭言　1
○10 周年記念フォーラム＆交流会を開催しました　2
○ブランディング・プロジェクト　5
○ひょうごコミュニティ財団の動き　6
・ひょうご7地域連携講座開催
・「真如苑・ひょうご多文化共生基金」中間報告会を開催
・「ひょうご・みんなで支え合い基金」報告フォーラムの開催
・2024年助成団体の募集を実施
○10周年記念募金報告　8
○編集後記　8

■巻頭言

財団創立10周年に寄せて

副代表理事　島　田　雄　三
（司法書士、元兵庫県司法書士会会長）

当財団の創立10周年を記念したフォーラムをこの度盛会のうちに開催することができました。これも日頃からご支援いただいている関係者各位のおかげと感謝いたしております。

当日ご登壇いただきました講演者・パネラーの皆様、また、第二部でご挨拶をいただきましたご来賓の皆様には、暖かいご意見を賜り、今後の財団運営に貴重な礎になるものばかりでした。ありがとうございました。

人に喩えるならば、当財団はまだやっと青年期に差し掛かったばかりであり、これからしっかりと未来を見据え進んで参らねばなりません。その体力と知力を養って、今後もますます皆様方のお役に立てるよう一致団結して研鑽し、一層逞しくならねばならないと考えております。知恵を結集し、今後とも努力を怠らず、より一層の成長を目指さなければならないと決心致しております。

今回のフォーラムでの議論を聴いて、兵庫という地域をとおし、日本社会によりよき貢献ができる、また、当財団の発展が地域のよりよい発展につながるものと改めて確信いたしました。

今後とも皆様方のご支援を頂き、その実現を図っていきたいと存じます。どうかこの先も20周年30周年とお力をお貸しいただけますよう伏してお願い申し上げます。

ありがとうございました。

■10周年記念フォーラム＆交流会を開催しました

ひょうごコミュニティ財団は、2023年6月に設立10周年を迎えました。それを記念して、11月25日に神戸のラッセ・ホールにて「10周年記念フォーラム＆交流会」を開催しました。当日は、盛山文部科学大臣をはじめ多くの来賓と一般参加者総勢111名をお迎えし、盛況のなかにも、心温まるイベントとなりました。

◆第一部 フォーラム

開会挨拶

冒頭、西河紀男代表理事より開会の挨拶がありました。まず、参加者にご来場の謝意を伝え、ひょうごコミュニティ財団が10年前に市民の思いを受け何ら財産を持たぬ状態で生まれ、模索期を経て現在の規模となり、寄付累計額3．5億円超・累計助成額1．2億円超となっていることを報告。その上で、今後、益々皆様の支えが必要であるとし、挨拶を締めくくりました。

基調講演「震災と市民活動、若者に伝えたい」

神戸出身の元・NHK アナウンサー住田功一さん（大阪芸術大学放送学科教授）が「震災と市民活動、若者に伝えたい」と題して基調講演を行いました。神戸大学の学生たちが、震災で犠牲になった神戸大生の遺族をインタビューしたり、在学生に追悼行事への参加を呼び掛けたりした取組みを紹介しました。なかなか反応がなかった在学生も最終的には多くが追悼行事に参加、その結果は直接の訴えだけではなく、様々なルートを通じた間接的な情報がその行動に繋がった

ことを分析しました。その結果から「若者は情報のかけらを拾うのは得意で、心に刺さるエピソードに共感する」と指摘、更に行動を促すには複数のルートで情報を届けること、発信者が原点を大事に持ち続けることが重要と訴えました。参加者よりは、“よい振り返りの機会となった”、“日ごろ、若者へのアプローチに苦慮していたので、非常に参考になった”等、多くの反響を頂いています。

報告「10年の歩みと展望」

「10 年の歩みと展望」と題し、実吉威代表理事が報告を行いました。

冒頭、寄付者・会員・関係団体や行政及び助成先など、多くの協力者の名前を示しつつ、心よりの感謝の意を示しました。その上で、これまで目指してきたものは、地域からのお金（寄付）で市民活動を支えること、それを繋いでいくことであるとし、さらに寄付の見える化、市民自治の実現も目指し活動してきたとこれまでの 10 年を総括しました。ひょうごコミュニティ財団の事業の特色としては、活動のリアリティを大事にした支援、持続と成長への支援、多くの方の力を借りたネットワーク型の支援であると整理、一方で寄付者への支援を大切にし、そもそもの目的である市民セクターが成長することが地域社会を豊かにするというビジョンを堅持し活動していると説明しました。 ゆえに、今後の展望としても、「課題解決」だけでなく、市民参加・市民自治が向上することが本質であると位置づけ、そのために、「参加」の表れとしての寄付をより多く募り、助成プログラムを深化させ、非資金的支援を強化し、寄付以外の「参加」を促していくとの決意を表明しました。最後に、次の10年を目指し、更なるご支援を頂きたいと参加者に訴えました。

シンポジウム「財団とのかかわり、財団への期待」

以下の 5 名の方々がパネラーとなり、「財団とのかかわり、財団への期待」と題し、シンポジウムを行いました。

登壇者（敬称略）

茂木美知子	（認定特活）女性と子ども支援センター・ウィメンズネットこうべ理事
西部智子	弁護士（法律事務所ユノ）
柏木輝恵	（特活）シミンズシーズ事務局長
出口正之	国立民族学博物館名誉教授
中田豊一	（特活）市民活動センター神戸理事長

当財団の評議員でもある中田豊一がコーディネーターを務め、まずは、登壇者のそれぞれの立場からの財団とのかかわりについて、発言を促しました。「有園博子基金」等、当財団の助成先であるウィメンズネットこうべの茂木さんは、「有園博子基金」、とりわけ「組織基盤強化コース」での助成が同団体の存続と発展を支えたこと、そして今、組織を持続させることの重要性を実感していると言及。その有園博子さんの遺言執行人であり、「有園博子基金」の企画・選考委員を務める西部さんは、有園博子さんの遺志は被害者支援、それもすきま支援であったことに言及。その実現には専門性とお金が必要であったが、財団がそれをうまく運営してくれたこと、また、時代の変化に伴い「有園博子基金」が変化してきたが、そこには企画委員の

方々の努力があって実現していると言及されました。「輝け加古川みらい基金」を財団と共に運営してきたシミンズシーズの柏木さんは、この基金が地域限定という特殊な基金であったこともあり、地域の小さな団体にも手を差し伸べるきめ細やかな助成となったことが説明されました。

シンポジウム後半の財団への期待や注文について語られた部分では、「有園博子基金」組織基盤強化コースで行われている伴走支援といった非資金的支援を更に強化してほしい（柏木さん）や、それに同意した上でその為には財団自身がもっと体力をつけるべき（西部さん）との声も上がりました。茂木さんからは、財団の基金は市民活動をよく知った使い勝手がよい助成であることに触れ、その強みを更に強化すると共に、若い人への拡がりにも繋げてもらいたい、その為にはどう知ってもらうか、如何に発信していくかが肝要であるとしました。

最後に世界のコミュニティ財団を知る出口さんは「であることとすること」という視点を示され、世界の

寄付は「であること」即ち誰がやっているかというだけで巨額な寄付が集まるが、現代日本は「すること」、即ちどんな「成果」を出しているかを見極めないと寄付（資金）が集まらない社会に変わったと述べました。改めて「である」寄付の大切さを見直し、兵庫という地、ひょうごコミュニティ財団という人を考えれば、寄付を募るのでなく、能動的に寄付してもらう社会を創り出すべきである、現状に満足せず、世界一を目指してほしいと締めくくりました。

◆第二部　交流会

盛山文部科学大臣

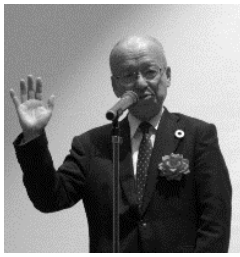
第一部フォーラムが終了後、場所を隣室に移し、立食パーティー形式での交流会を行いました。会の冒頭では、駆けつけて頂いた来賓の方々にご挨拶を頂きました。

盛山文部科学大臣からは、大臣となり、その職責からいじめや不登校の問題をよく耳にするが、そうした地域課題はNPO といった志がある方々なしでは解決できない、また、それを支える財団の存在が10年という年月で一つの力になっているとの発言がありました。

久元神戸市長

続いてご挨拶を頂いた久元神戸市長、片山兵庫県副知事からも、光の届かないところに光を届ける NPO の存在、それを支えつなぐ財団の存在の重要性につき言及がありました。

学生時代、阪神淡路大震災の折にボランティア活動に参加した経験のある稲村前尼崎市長からは、その頃お世話になった皆さんとこの10周年を共に喜び



片山兵庫県副知事

稲村前尼崎市長

伊藤副会頭

大国常務

たいと挨拶がありました。また、財界を代表し、神戸商工会議所の伊藤副会頭からは、今後経済界も儲け主義だけでは生き残れない、共に地域課題に取り組みたい、神戸の財界としても財団とともに地域づくりに貢献したいとのご挨拶を頂きました。

その後、神戸新聞社の大国常務より、財団設立の折、同社高士社長（当時）等が発起人に名を連ねていることを紹介。また同社が阪神淡路大震災で気付かされた同社の精神である“報道するだけでない、市民とともに考え歩む”は、財団とともに歩むことで、実践してくることが出来た。ゆえにおめでとうと言う以前にありがとうと申し上げたいと述べられ、乾杯の音頭を取って頂きました。

会の中盤では、当日参加頂いた方の中から、選考委員としてお世話になった方、県内外から駆けつけて頂いた NPO の仲間からもお祝いの言葉を頂きました。そして最後に、実吉代表理事より、この10周年機会としてここ数カ月取り組んできたリブランディング・プロジェクトについて報告（詳細は後述）し、改めて御礼を申し上げ会は閉会しました。

■ブランディング・プロジェクト

ひょうごコミュニティ財団では、10周年の機会に、改めて法人理念を言語化し広報ツールをリニュアルすることで、次の 10 年に向けた財団の方向性を内外に浸透させていくことを目指しブランディング・プロジェクトを行いました。シミンズシーズの事務局長　柏木輝恵さんをコーディネーターとして招き、7月以降、7回にわたるセッションを実施しました。その中で、10年の歩みを振り返り、自分らしさや原点を見つめ直し、周りからの評価を再確認すると共に、目指したい社会はどんな社会か、自分たちらしい社会への役立ち方はどんなものかを議論しました。最終段階では、そこで確認された思いをどのような言葉で表すかを更に何度も討議を重ねました。その結果、以下の新しい「ビジョン」と「ミッション」を決め、10周年記念フォーラム＆交流会の席上にて発表しました。

VISION 「市民の社会参加が豊かにひろがり、一人ひとりの思いが実現する社会」

MISSION「あなたの『役に立ちたい』をカタチにし、市民とともに挑戦する」

同じ記念フォーラム＆交流会の席上では、ブランディングの第二弾として、ひょうごコミュニティ財団の「愛称」を公募することも発表しました。この財団が広く親しまれ、気軽にお声がけ頂けるような「愛称」を皆さんで考えて頂きたいと訴えました。公募は、財団の HP で 2024 年 1 月 12 日まで募集しております。

こんな取り組みもしています

■ひょうごコミュニティ財団の動き

ひょうごコミュニティ財団の本年10月以降の活動を紹介いたします。

ひょうご7地域連携「NPO・地域活動の資金調達セミナー」を実施

兵庫7地域（小野、丹波、宝塚、明石、加古川、姫路、川西、以上開催順）にて、「資金調達」という同一テーマのセミナーを、ひょうごコミュニティ財団が全体主催を行う形で実施しました。これは、令和5年度「孤独・孤立対策活動基盤整備モデル調査事業」の一環として、NPO・地域活動における財源のあり方や助成金申請のポイントを学んでいただく為に実施したものです。各地においては、それぞれに拠点をおく中間支援団体（詳細は以下）が各地の主催者となり、連続 2 回セミナーとして開催しました。それぞれ、開催曜日・時間、セミナーの内容等、各地域の実情に合致するように工夫をこらし、その地域ならではの開催となりました。その内容は、7地域団体及び当財団間で共有することで、主催者側もお互いに学び合う機会となり、是非とも今後にも繋げたいとの声を聴くことが出来ました。尚、「孤独・孤立対策活動基盤整備モデル調査事業」としては、このセミナー開催にとどまらず、同じく7地域連携にて相談事業や伴走支援事業に展開して取り組んでいます。

各地域の主催及び協力団体は以下の通りです。

小野：主催 （特活）北播磨市民活動支援センター
　　協力 （特活）あしたあさって
丹波：主催 （特活）丹波ひとまち支援機構
宝塚：主催 （認定特活）宝塚 NPO センター
　　後援 宝塚市
明石：主催 （一財）明石コミュニティ創造協会
　　協力 複合交流拠点ウィズあかし
加古川：主催 （特活）シミンズシーズ
　　協力 東播磨生活創造センター「かこむ」
姫路：主催 （特活）姫路コンベンションサポート
　　協力 姫路市市民活動・ボランティアサポートセンター
　　地域しごとサポートセンター播磨
川西：主催 （特活）市民事務所かわにし
　　協力 川西市市民活動センター

真如苑・ひょうご多文化共生基金中間報告会を開催

11月15日、オンラインにて「真如苑・ひょうご多文化共生基金」の中間報告会を開催しました。

当日は、2023年度の「真如苑・ひょうご多文化共生基金」の助成先7団体が集い、各団体がこれまでの活動を報告すると共に、それに対し、他団体が感想や質問等を述べ、交流を深めました。

最後に選考委員会の武田委員長より、各団体の報告を聞き、苦労しながらも工夫をこらし活動している状況や団体間で既に連携する動きが始まっている現状に感銘を受けた旨発言、また、困窮する外国人を支援していくためには、直接的な支援が重要ではあるが、地域との繋がりを作り、地域での理解を深めてい

くことも肝要であると訴え、総括の挨拶とされました。

「ひょうご・みんなで支え合い基金」報告フォーラムを開催

10月15日、コープこうべ住吉事務所の大会議室をお借りし、「ひょうご・みんなで支え合い基金」の報告フォーラムを開催しました。オンラインを含め約50名が参加し、基金の成果を確認すると共に、今後の課題についても話し合われました。

「ひょうご・みんなで支え合い基金」は、新型コロナウイルス禍で一層厳しい状況に追い込まれた人を支える市民活動を資金面で迅速に応援する為、2020年5月に兵庫県内のNPO有志が動き、当財団内に設立された基金です。2023年3月までに3次の助成事業を行い、コロナ禍の緊急支援という役割をひとまず終え、今回その報告を行いました。

当日は、この基金の助成を受けた4団体の代表が、学校が休校する中、障がい者が働く事務所に発注して子育て世帯へ弁当を提供したり、男性のひとり親や発達障害の子どもを育てる親による講演会を開いたりした成果を紹介しました。また、同基金実行委員長で被災地NGO協働センター代表の頼政良太さんら3人でおこなったパネルディスカッションでは、コロナ禍後の新しい支援の在り方について意見交換をしました。

このフォーラムをもって緊急支援としての役割は終了しましたが、今回の取組みで学んだみんなで支え合うとの精神は、現在、継続的な活動や事業を支える後継基金「新ひょうご・みんなで支え合い基金」にて引継ぎ、ひょうごコミュニティ財団で進めています。

「NPO 法人会計レベルアップ講座」の開催

11 月 21 日と 11 月 28 日に NPO 会計支援センター・会計アドバイザーである村上義弘さんを講師に招き NPO 法人会計レベルアップ講座を 2 回にわたり開催しました。この講座は、23 年度「神戸市認定NPO」法人相談窓口」委託事業の一環として実施されたものです。NPO 法人にて会計実務を行っている方を対象にした講座で、第 1 回は、「正しい会計と仕訳の基礎」、第 2 回は、「出納帳から決算書作成まで」と題し、会計の基本のキから、年度末の不安を解消するまでの実務講座となりました。

2024年助成団体募集

2024年の助成事業として、「第６期有園博子基金」「第８期真如苑・ひょうご多文化共生基金」「第2期ひょうご・みんなで支え合い基金」（ひょうご市民活動応援基金より名称変更）の募集を行いました。応募期間は11月 20 日から12 月 18 日まで。今回の募集は、昨年に続き合同募集の形をとりました。「有園博子基金」では、支援の網の目からこぼれる「隙間」を常に重視された有園博子さんのご遺志と社会状況の変化を鑑み、対象をより広く「困難な状況にある女性への支援への支援活動」も対象としました。また、「新ひょうご・みんなで支え合い基金」では、新たな寄付による「野田子ども・若者応援基金」の新設に伴い、若者の活動

支援を新規でスタートさせました。

すでに応募は締め切られ、多くの応募を頂きました。これから24年3月にかけて基金ごとに選考を進めてまいります。

■10周年記念募金

10周年にあたり、「女性」「若者」などの分野を中心に、助成プログラム拡充も視野に記念募金を実施しています。「有園博子基金」において、助成対象を拡げ「困難な状況にある女性の支援」も対象としたことを受け、今回の記念募金でも女性の支援（拡充）を一つの分野とすると共に、県内で様々な壁にチャレンジしている若者の活動支援のために「若者の活動支援」を新設しました。合わせ、1口10万円以上の冠基金や当財団の運営支援（賛助会員）の募集も引き続き行っています。12月20日時点にて、150万円を超える募金が集まっています。

〖編集後記〗

9 月に第 6 号を発刊したのに続き、今回第 7 号を発刊することが出来ました。10 周年を迎え、いよいよ慌ただしさを増すひょうごコミュニティ財団の様相を映し出したようです。そんな中、2023 年も駆け抜けていきました。よく、年を重ねると共に時間が経つのが速くなると言いますが、人は歳と共に思考も動きも鈍くなるのに、周りだけが速くなり、なにか置いていかれるような感覚でしょうか？

しかし、今年、60 を超えて、全く畑違いの財団に飛び込んだ筆者は、新しい経験を積みました。全くの畑違いの環境に飛び込めば、そこでの時間は非常にゆっくりと動くということ、これまで何度も転勤をし、海外での生活も経験しましたが、同じようなことはありませんでした。非常に貴重な経験です。しかし、悲しいかなそんな物珍しくゆっくりと過ぎる時間も 2 カ月ほどで終わり、今は歳相応の速さで再び動き始めて居ります。

新しい年、2024 年、みなさまにとって、ゆったりと充実した 1 年となりますように。（T.Y）

賛助会員のご入会・ご継続のお願い

当財団では、ともに地域コミュニティをより良くしていこうという皆さまのご入会、会員のご継続をお願い致します。

賛助会員

個人 年会費 5,000 円/ 口

団体 年会費 20,000 円/ 口

《入会の特典》▽当財団からの情報提供 ▽当財団開催のイベントのご招待 ▽各種セミナー、交流会等への優先的ご案内、参加費割引 ▽社会貢献、CSR 活動へのコンサルティング、サポート ※お問い合わせはお気軽に事務局へ⇒

公益財団法人ひょうごコミュニティ財団

神戸市中央区元町通6-7-9 秋毎ビル3F

☎ 078-367-3336 FAX 078-367-3337

✉ hyogo@communityfund.jp

発行人 西河紀男、実吉威 編集人 安井毅

口 座 ゆうちょ銀行 00290-4-129316

みなと銀行 神戸駅前支店（普通）663926

※当財団へのご寄付は、公益法人へのご寄付として寄付控除の対象となります。